

乳腺切除術は下記の内容に含まれます。

乳房縮小・乳房吊り上げ術とは

加齢などの影響により、下垂してしまった乳房をハリのある上を向いたバストに修正する手術です。余剰な皮膚を切除し、引き上げ、乳首の位置を整えます。

手術方法

・ドーナツ型切除

あまり大きな変化が必要ない場合には、乳輪の周囲の皮膚をドーナツ型に切り取る方法。

【長所】

傷は乳輪の周囲にしかできないので、目立ちにくい。

【短所】

乳輪の周りにギャザー（細かい皺）ができます。

多くの場合は、時間と共に目立たなくなっていくますが、人によっては目立ってしまう場合もあります。

特に傷を小さくしたいがために、無理にこの方法を選択した場合には、このギャザーが残ってしまう傾向にあります。

・縦型切除

木の葉型に皮膚を切り取り、縦型に縫い縮める方法です。

【長所】

縦方向に傷を延長することで、ドーナツ型に皮膚を切除した場合に生じるギャザーを消すことができます。

乳輪の下傷は比較的目立ちにくいことが多いです。

【短所】

乳輪の下傷が目立ってしまうことがあります。

乳輪乳頭の位置が上昇します。乳輪乳頭の位置が上昇することは、アンチエイジングのためには良いことですが、下垂が進行してきていて、乳輪乳頭と乳房下溝の間の長さが伸びてしまっている方には、乳房全体のバランスが悪くなるため、この方法はお勧めしていません。

・逆T字型切除

縦型切除法は切除する皮膚を木の葉型にデザインし、縦型に縫い合わせました。そのために横方向の皮膚のたるみを取るには適した方法でしたが、縦方向の皮膚のたるみを取ることはできないため、下垂の程度によってはバランスの悪い乳房になってしまう方法です。

逆T字切除法では、それに加えて乳房下溝付近で横方向にもデザインを加え、乳房下溝に合わせた横方向に縫い合わせる方法です。

【長所】

縦方向と横方向のどちら方向にもたるみが取れるために、綺麗な形状に仕上げることができます。

【短所】

傷が長いことが最大の欠点です。形成外科的な縫合手技を用いて、丁寧に縫合しますが、人によっては傷が目立ってしまう場合もあります

術後の状態・ケアについて

・手術後は、創部にドレーンを挿入し、ガーゼ保護を致します。固定のためのバストバンドを3日間付けたままにさせていただきます。その間は洗髪、洗顔などは可能ですが、バストバンド付近を濡らさないようにしてください。胸から下のシャワーは可能です。

・術後3日目に来院していただき、ガーゼをとり創部の状態をチェックします。問題がなければ、短時間であればバストバンドを外せるようになるため、シャワーで身体を洗っていただけます。※ブラトップの着用が可能です。事前にご準備ください。

・7日目抜糸以降、バストバンドが取れれば入浴可能です。術後1週間程度は血流が良くなることでの刺激を防ぐため、長時間の入浴や熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。

・軽い運動は1週間以上、激しいスポーツは1ヶ月程度お控えください。

・抜糸後は傷をテープで固定し、局所の安静を守ります。傷を綺麗に治すために大事な後療法ですので、3ヶ月間行うようにしてください。テープは抜糸時にお渡しします。またテープの貼り方は抜糸の際に指導します。

・スポーツへの復帰

抜糸後から、軽いウォーキングなどは構いません。

本格的なスポーツへの復帰は、手術後3ヶ月は控えてください。

・経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し、患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。

手術後に生じる可能性のあるリスクについて

【血種】

手術後、出血した血液が体内の組織内に溜まって排出されずに腫れが長く続く場合があります。通常ですと経過とともに吸収排泄され改善される場合が多いですが、必要な場合処置を行います。

【内出血】

胸の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1～2週間ほどで腫れは引いていきます。

【感染】

術後、熱を持ったり赤みが出て痛むようなときは、手術手術部位が炎症を起こしている可能性があります。感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。

場合により抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性がありますので、違和感がある際はクリニックまでご相談ください。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【乳房の形状】

乳房の形は変化します。切除した組織が戻ることはありませんが、重力には逆えられないため下垂は再発します。極端に小さくすると血流の問題が生じやすくなります。

また、乳房の形に左右差が残る可能性があります。

【乳房の感覚】

乳房の皮膚の感覚、特に乳頭の感覚が鈍くなったり、変化することがあります。

【乳頭、皮膚の壊死】

乳頭や皮膚を栄養している血管を切除しないと手術はできませんので、ある程度は切除します。通常は問題ないのですが、人によっては乳頭(や皮膚)への血流が不足して、壊死してしまうことがあります。また壊死に至らなくても、血流が悪い場合には傷の治りが悪いなど、様々な悪いことが生じる可能性があります。

その場合、再建の手術を必要とする可能性があります。

この手術は美容外科の手術の中では、規模の大きな手術です。たとえるならば、両側の乳がんの手術を同時に行うような規模です。予想外に治療期間が伸びることもありますので、ご理解ください。

乳房吊り上げ術をお受けいただけない方

妊娠中の方、または妊娠をご検討されている方、授乳中の方、麻酔剤アレルギーの方、体調が優れない方やその他の理由によって医師が不可と判断した場合は、手術をお受けいただけません。

術前に必ず乳癌の診断は行ってください。※当院で乳癌の診断は行っておりません。